

フェアトレード商品の生産者支援効果に関する研究
～コーヒーの購入で生産者支援が実現できているか～

08MD0230 割石貴美子

1. 研究の目的

フェアトレード（公正取引）とは、零細な生産者の適正賃金・所得の確保、識字や貯蓄などの活動支援、環境や文化の保全などを目的に掲げ、市場価格より多少高い価格で適正な利益を確保し輸入販売するものであり、途上国の持続可能な開発に貢献するものである。

フェアトレード商品を購入すると、南の生産者支援を実現するという新たな価値観にもとづいた商品選択基準の登場である。それに付加価値を認め、高い価格でもいいからと買う消費者が生まれたのである。しかし、これらの商品を購入すると、どのように生産者を支援できるのか消費者が正確に知ることは容易ではない。はたして、私たちがフェアトレード商品を購入することで、生産者支援が実現できているのだろうか。この疑問を明らかにすることが研究の目的である。

2. 研究の方法

「フェアトレード商品の購入で生産者支援が実現できているか」という疑問に答えるために、本論文ではコーヒーという代表的なフェアトレード商品を取り上げ、次のような問いを立て、研究をすすめた。

(1) コーヒー貿易の何が不公正であるのか。

まずはコーヒーの歴史、植物としてのコーヒーの特徴を知る。そして、コーヒーの流通経路と各過程において、どのような取引が行われているのか明らかにすることで、不公正だといわれている理由を確認する。さらにそのような貿易の結果生産国はどのような状況に陥っているのか、生産国の国民総所得や貧困ライン、文献による生活状況の記述などから確認する。

(2) 持続可能な開発を実現するためには、どのような貿易条件が必要か。

今までのコーヒー貿易の不公正さを解決し、「持続可能な開発」を実現するために必要な貿易条件を考える。本論文では「適正価格での取引ができているか」と「強い生産者組合が形成されているか」に着目し、そのために必要な貿易条件を考える。

(3) 現行のフェアトレードは、そのような貿易が実現できているのか。

国際フェアトレードラベル機構(FLO)および、世界フェアトレード機構(WFTO)が扱うコーヒー貿易を事例として取り上げる。「適正価格での取引ができているか」に対しては、フェアトレード生産者の収入と、国別貧困ラインとを比較することで、フェアトレード価格がどのような意味を持つのか考える。「強い生産者組合が形成されているか」に対しては、組合の規模や生活状況を探ることで、フェアトレードが持続可能な開発に役立ったのか考える。

3. 論文の構成

第1章 フェアトレードとは

第1節 フェアトレードの定義

第2節 フェアトレードの歴史と現在

第2章 コーヒーの貿易が不公正だとされる理由

第1節 コーヒーの歴史と植物としてのコーヒー

第2節 コーヒーの流通とコーヒー価格

第3節 コーヒー生産国の経済・社会状況

第4節 持続可能な開発のための貿易条件

第3章 FLO によるコーヒーのフェアトレード

第1節 FLO 認証コーヒーのフェアトレード基準

第2節 FLO 認証コーヒーは適正価格での取引ができているか

第3節 FLO 認証コーヒー生産者の生産者組合

第4章 WFTO によるコーヒーのフェアトレード

第1節 WFTO によるコーヒーのフェアトレード基準

第2節 WFTO によるコーヒーは適正価格での取引ができているか

第3節 WFTO によるコーヒー生産者の生産者組合

第5章 まとめ

第1節 コーヒーの購入で生産者支援が実現できているか

第2節 フェアトレードの今後

3. 論文の概要

第1章 フェアトレードとは

第1節 フェアトレードの定義

FINE の定義では、「南」の弱い立場にある生産者や労働者に対して、より良い貿易条件を提示し、かつ生産者の権利を守ることによって、生産者の持続可能な開発に貢献し、かつ従来の国際貿易のルールと慣行をも変える力となる貿易」と述べている。

第2節 フェアトレードの歴史と現在

本来貿易とは誰にとっても平等であるはずであるが、実際は途上国生産者は劣悪な労働環境のもと、貧しい生活を送っている。これに対し、「オルタナティブ」な貿易の提案として始まったフェアトレードは、第二次世界大戦後にスタートして以来、半世紀以上の歴史を刻んできた。

第2章 コーヒーの貿易が不公正だとされる理由

第1節 コーヒーの歴史と植物としてのコーヒー

コーヒーは奴隷によって、労働搾取が行われていた歴史を持つ。天候、天災、病疫、虫害などによって影響を受けやすく、収穫量が不安定な農産物である。不安定な生産性と価格の変動は「コーヒー・サイクル」とよばれている。

第2節 コーヒーの流通とコーヒー価格

コーヒーの流通経路は複雑多岐に渡る。コーヒー価格は生産者から輸入業者に渡るまでは、先物取引による国際価格の影響を受ける。国際価格は、経済・政治社会・金融為替情勢、政府の政策等の影響を受け、大幅変動を繰り返す。輸入業者に渡ってからはその影響を受けないため、コーヒーによる利益の多くが焙煎業者に渡る。生産者はコーヒー価格の約 4%、焙煎業者は約 70%得るという報告がある。生産者価格は、生産コストをまかなうこともできない低い価格である。

第3節 コーヒー生産国の経済・社会状況

生産国はコーヒーに依存する国民総所得(GNI)の低い途上国が多い。生産者の半分以上が約 1~5ha の土地で家族生産される小規模生産者である。2000 年~2009 年のコーヒー指標価格にもとづいて生産者の収入を計算すると、コーヒーから得る収入だけでは貧困ライン並みの生活を送らざるを得ない状況であった。

第4節 持続可能な開発のための貿易条件

コーヒー生産者が直面している問題は、コーヒー価格の高低はもちろん、価格変動を起こす不安定さにあると感じた。多少低くても常に安定した現金所得があるからこそ、安心して次の収穫に望める、有機栽培などの新たな挑戦もできる。安定した取引により生産者が自立していくことが、フェアトレードにおける「持続可能な開発」であると考えた。そこで、「適正価格」「生産者組合」に着目した。「適正価格」とは何か考え、そのような価格を作り出すためには、長期的・安定的契約、前払い、割増金の支払いと使途、中間業者の排除が必要条件であると考えた。「生産者組合」については、組織化、民主的運営、社会的側面への対応、技術指導、環境対応、情報提供、多角化の追求、エンパワメントの獲得と向上が必要条件であると考え、フェアトレードの生産者支援効果をみることにした。

第3章 FLOによるコーヒーのフェアトレード

第1節 FLO 認証コーヒーのフェアトレード基準

FLOは生産者、輸出入業者、販売業者がFLO基準を遵守している場合、当該商品にFLOの認証ラベルを貼付することを許可する認証団体である。生産者は社会開発、社会経済開発、環境開発、労働基準面に関する一般的基準を遵守していなければならない。認証を受けるには、毎年30万円ほどの認証料をFLOに支払う。

第2節 FLO 認証コーヒーは適正価格での取引ができているか

メキシコの生産者組合UCIRIおよびFIEGHの事例を取り上げた。FLO認証コーヒーは、最低価格が保証されている。そのうち生産者へ支払われる金額は1/2ほどで、残りは組合に渡る。生産者のコーヒーからの収入と、メキシコの貧困ラインとを比較した結果、コーヒーだけでは貧困ライン並みの生活を送ることになる結果となった。しかし、長期契約、前払い制度、プレミアムによって地域のインフラが整う等、生産者が安心してコーヒー栽培できる保証を与えているという点で、フェアトレードの効果が現れた。

第3節 FLO 認証コーヒー生産者の生産者組合

FLOは組合を作ることを絶対条件にしている。生産者組合を3つの発達段階にわけ、どのような組合が形成されているのか確認した。UCIRIは完成度の高い組合が形成されていた。弱い立場の生産者の力を大きくするために、「生産者組合」は非常に重要な意味を持つことが分かった。

第4章 WFTOによるコーヒーのフェアトレード

第1節 WFTOによるコーヒーのフェアトレード基準

WFTOは取引を通して生産者と対等な関係を構築することに重きを置く。基準がFLOのように具体的でなく、より生産者の実情に沿ったものである。

第2節 WFTOによるコーヒーは適正価格での取引ができているか

ネパリ・バザーロが扱う事例を取り上げた。FLOの支払いより多い金額(2008年でFLOの約2.2倍)を生産者へ支払っていた。しかし生産量が低いため、年間収入に換算すると、ネパールの1人あたりのGDPをかなり下回る結果となった。

第3節 WFTOによるコーヒー生産者の生産者組合

生産者は有機栽培の認証を得、市場を開拓していく。組合が脆弱な状態から、フェアトレードを通して、力を得ていくネパリの取り組みは、生産者との関係性において非常に素晴らしいものであった。

第5章 まとめ

第1節 コーヒーの購入で生産者支援が実現できているか

第2節 フェアトレードの今後

本来、フェアトレードは「特別な」ことであってはならないはずであるが、現在は「サステナブル・コーヒー」として差別化されている。日本ではまだまだ市場規模が低いものの、イギリスなど諸外国においてはかなり普及されつつある。日本においても筆者の身近なところで、フェアトレードと言わなくてもそれを実践しているコーヒー焙煎業者を紹介した。フェアトレードの効果が波及効果となって、公正な貿易への実現となることを確認し、研究を終えた。